

林木遺伝子銀行110番（市毛小のアカマツの里帰り）

令和元年9月17日

令和元年9月17日（火）に、林木遺伝子銀行110番で受け入れた「市毛小のアカマツ」が里帰りしました。

「市毛小のアカマツ」は、茨城県ひたちなか市立市毛小学校の校庭にある樹高20m程度、直径90cm程度の巨木で、「桜明るく松清き」と校歌に歌われる学校のシンボリックな存在となっていました。しかし、腐朽により衰弱し枯損する可能性があったため、平成28年11月に市毛小学校から依頼を受け増殖に取り組みました。すでにほとんどの枝が枯れてしまっていたことから、増殖には難しいところもありましたが、接ぎ木により4本の後継樹（クローン苗）の育成に成功しました。

後継樹は市毛小学校の第78回創立記念集会において、全校児童およそ540人が見守る中、児童の代表に手渡され、無事に市毛小学校に里帰りできました。

児童の代表が、アカマツが枯れて悲しかったが、そのアカマツの後継樹が戻ってきたのでみんなで大切に育てたいと決意を伝えてくれました。後継樹の増殖が難しかった「市毛小のアカマツ」を大切にしていきたいという決意を聞いて、苦勞が報われたと感じました。また、この里帰りの模様が茨城県内で、その日の夕方のニュースでも報道され、児童たちも良い思い出になったそうです。



切り倒される前の「市毛小のアカマツ」



無事に里帰した「市毛小のアカマツ」



児童代表の挨拶



後継樹を児童の代表に手渡し